



〈雑録〉獨逸ノ軍費ト軍事公債(1)

津村, 秀松

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 22(6):1011-1019

(Issue Date)

1917-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052723>



雜 錄

獨逸ノ軍費ト軍事公債 (二)

法學博士 津 村 秀 松

開戰以來、獨逸ハ既ニ幾何ノ戰費ヲ要求シタカトイフニ、本年二月二十三日新ニ百五十億馬克ノ軍事費支出案ヲ帝國議會ニ提出シテ其協賛ヲ經タノヲ最後トシテ、前後通ジテ八回ニ互リ、其ノ高合計七百九十三億四千二百萬馬克ニ達シテ居ル。今其ノ内譯ヲ表示スルト大要左ノ如クデアル。

獨逸ノ戰費要求額

一九一四年度	第一回	一九一四年八月四日要求	五、三〇〇、〇〇〇、〇〇〇 _{馬克}
	第二回	十二月三日要求	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一九一五年度	第三回	一九一五年三月二十二日要求	一〇、〇四二、〇〇〇、〇〇〇
	第四回	同 八月三十一日要求	一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
	第五回	同 十二月二十四日要求	一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一九一六年度	第六回	一九一六年六月七日要求	一一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

第七回

同

十月二十八日要求

第八回

一九一七年二月二十三日要求

合計

一二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
七九、三四二、〇〇〇、〇〇〇

此内第八回ノ戰費要求額百五十億馬克ハ、大體本年ノ四月カラ八月マデノ戰費ヲ支辨スルモノデア
ルカラ、遠カラズ復第九回ノ戰費要求ヲ見ルベキ筈デアル。

ソレハ兎ニ角、獨逸ガ既ニ今日マデニ消費シ若クハ將ニ消費シ盡サントスル戰費ガ七百九十億馬
克ニ達スルトイフコトハ、寔ニ驚クベキ事實デアル。ガ之ニ就テ、昨年十月、前記第七回ノ戰費要
求ニ方ツテ、此國ノ藏相レーデルン伯ガ議會ニ於テ述ベタトコロニヨルト、「諸交戰國ノ今日マデノ
戰費ハ約二千五百億馬克デ、此内、獨逸及ビ其ノ與國ノ消費シタルトコロハ其ノ三分ノ一デ、獨逸
ノミノ消費ハ其ノ五分ノ一デ、即チ五百二十億馬克(前記第六回迄ノ戰費要求額總計)ニ過ギナイ」ノデアル。ソレニシ
テモ獨逸ノ戰費ハ次第ニ増加シテ、開戰當初ノ會計年度(自一九一四年八月至一九一五年三月)ニ於ケル戰費ハ平均一箇月
十二億八千五百馬克デアッタノガ、此當時(一九一六年十月)一箇月ノ戰費既ニ二十一億八千七百萬馬克ニ達
スルニ至ッタコトハ、是レ亦前記ノ藏相ノ演說中ニ述ベテ居ラレルトコロデアル。ソレガ今日デハ
更ニ一層戰費ノ膨脹デ、一箇月約三十億馬克、一日約一億馬克ノ割合ニナツテ居ル。今之ヲ邦貨ニ
換算スレバ、一日五千萬圓ノ割合デ、日露戰爭ニ際スル我國ノ戰費ノ約二十倍ニ當ル金額トナルハ
デアル。

二

扱テ、獨逸ハ是レ丈ケノ戰費ヲ如何ニシテ支辨シタカトイフニ、大體ノ遣方ハ英吉利ヲ初メ他ノ

諸交戰國ト大同小異デアツテ、就中佛蘭西トハ最モヨク其ノ戰費調達法ヲ等フシテ居ル。尤モ獨逸ハ開戰當初ノ動員費其ノ他ノ一九一四年度ノ國庫剩餘金二億一千九百萬馬克及ビ彼ノ有名ナルスバンタウノ「ユリウス」寶塔ノ中ニ貯藏セル戰爭準備金即チ一八七一年十一月十一日ノ法律ニ基ク帝國軍事資金一億二千萬馬克竝ニ今回ノ戰爭ヲ豫期シテノ準備行爲デアツタトシテ著聞スル一九一三年七月三日ノ幣制改革法（新ニ少額紙幣ヲ發行シテ金貨八千五百萬馬銀ニ貨三千五百萬馬克ヲ回收貯蓄スルニ至ツタ法律）ニ基ク帝國軍事資金一億二千萬馬克等ニ求メタガ、此種ノ資金ハ自カラ限リアルモノデ、今回ノ如キ大戰ニ就テノ巨額ナル戰費ニ對シテハ誠ニ九牛ノ一毛モ當ナラザルモノデアアル。又其後ノ戰費ノ一部ハ、米國公債及ビ瑞典銀行ヨリノ借入金ヤ、白耳義ニ於ケル占領地賦課金ニモ依ツタノデアアルガ、是亦大體ニ於テ數フルニ足ラヌモノデアアル。ソコデ、戰費ノ大部分ハ大體帝國銀行ヨリノ借入金ト、軍事公債ノ募集ノ二途デアツタ。即チ開戰當初ノ二箇月ハ、專ラ帝國銀行ヨリノ借入金デ支辨シタガ、其ノ後此借入金ノ高ガアマリ膨脹シテ來タモノダカラ、其年ノ九月ニ第一回ノ軍事公債ヲ募集シテ、其ノ手取金デ以テ、借金ヲ銀行ニ返シ殘金ガ無クナルト、又再ビ銀行カラ借入ヲシテ、ソレガ多クナルト、更ニ又第二回ノ募債ニ着手スルトイフ風ナ遣方ヲ繰返シテ、今ニ至ツテ居ルノデアアル。

然ラバ、斯ノ如クシテ繰返サレタ軍事公債ノ募集ガ、既ニ幾回ニナツテ居ルカトイフト、前後通ジテ六回デ、其ノ金額ガ總計五百九十七億五千六百萬馬克ニ上ツテ居ル。今其ノ内譯ヲ示ストイフト大要左ノ如キモノトナルノデアアル。

獨逸ノ軍事公債

回數	種類	据置及償還期限	利率	發行價格	募集額	應募額
第一回 (一九一四年)	短期公債 (國庫債券)	一九一七年迄四箇年据置 一九二〇年迄二償還	五分	九七五	無制限	四四〇〇
第二回 (一九一五年)	短期公債 (國庫債券)	一九二〇年迄六箇年据置 一九二三年迄二償還	五分	九七五	無制限	九〇〇〇
第三回 (一九一五年)	長期公債 (帝國公債)	一九二四年迄九箇年据置 爾後隨時償還	五分	九六五	無制限	二二〇〇
第四回 (一九一六年)	短期公債 (國庫債券)	一九二二年迄七箇年据置 一九三二年迄二償還	四分半	九六〇	無制限	一〇七二
第五回 (一九一六年)	長期公債 (帝國公債)	一九二四年迄据置 爾後隨時償還	五分	九六五	無制限	一〇六五
第六回 (一九一七年)	短期公債 (國庫債券)	一九二二年迄据置 爾後一九三二年迄二償還	四分半	九六〇	無制限	一〇六五
第六回 (一九一七年)	長期公債 (帝國公債)	一九二四年迄据置 爾後隨時償還	五分	九六〇	無制限	二二七〇

合計

(未詳)

五七五

三

次ニ是レ丈ケノ公債ヲ募集スルニ方ツテ如何ナル募集成績ヲ示シタカトイフニ、之ニ就テハ、大分面白イ統計的報告ガ、我が在外大使館ノ手ニヨツテ傳ヘラレテ居ル。尤モ此報告ハ第五回ノ軍事公債募集マデノ調ベデアルガ、試ニ其ノ内二三ヲ引用スルト、先ヅ第一ニ、前後通ジテ五回ノ募集成績中、應募者ノ數ヲ應募金額ノ高ニ應ジテ類別シテ見ルト、左ノ如キモノガアル。

軍事公債應募者數

回數	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
應募者數	一三三	四五一	九八三	二四〇	一七四
募集額	一〇〇以下	四五一	九八三	二四〇	一七四

500以上	500	二四一八四	五六一四七〇	八六二五九	六八二五九	六八一〇七
300以上	1,000	四三三三三	六〇七六六	九一八五九五	八八五九四一	六〇五四九四
1,100以上	11,000		四八八六一	五〇二七六	四六八七四	三〇一八三
2,100以上	五,000	一七五九一	三六四九五	四三三六六	三四七三五	二四五六五
5,100以上	10,000	五六四三八	一〇四九三	四七九三三	一三九二七	九三二八九
10,100以上	10,000	一九三三三	四六〇五五	五五四五五	四二二八八	四〇五七
10,100以上	五〇,000	一一五八四	六四四七	三三八四〇	三〇三二	二八五〇
50,100以上	100,000	三六元	七四三	一〇九〇	九二〇	九七四八
100,100以上	五〇〇,000	二五〇	四三二	七〇七四	六三〇八	七八七〇
500,100以上	一,000,000	五六一	五三六	八三三	六〇	一〇三
1,000,000以上		二二〇	三五	五三〇	五七四	七五
合計		一一七三三	二六九二六〇	三九六四八	五二九六四五	三八〇九九六

應募人員ハ第一回ヨリモ第二回、第二回ヨリモ第三回ト順次倍加シテ來ツテ、第四回ニ至ツテ、正ニ其ノ絶頂ニ達シテ居ル。即チ第四回ノ軍事公債應募人員ハ五百二十八萬人デ、獨逸ノ人口ヲ六千五百萬トスレバ、此際ノ應募者ハ十二人毎ニ一人ノ割合デ、一家平均四人ノ家族トスレバ、三戸ニ一戸ノ應募アツタトイフ譯ニナル、此戰爭ニ對スル獨逸國民全體ノ意氣込ノ如何ニ旺盛デアルカハ、此一事ニ就テモ、容易ニ知ルヲ得ルノデアルガ。然シ、ソレハ第四回ノ軍事公債募集トイフ昨年ノ三月ノコトデ、半年後ナル昨年ノ九月ニ第五回ノ軍事公債ヲ全ク同一ノ條件（唯公債ノ發行價格ガ第四回ニハ九八・〇トナツタ丈）デ、又全ク同様ニ募集額ヲ限定セズシテ無限ニ募集シタトコロ、應募金額ニハ大シタ變化ハナカツタガ、應募人員ハ、五百二十八萬カラ三百八十萬ニ激減スルニ至ツタノハ、注目スベキ現象デアル。

更ニ這般ノ消息ヲ明カニスル爲メニ、應募人員ニ就テノ割合表ヲモ引用シテ見ルト、左ノ如キモノガアル。

軍事公債應募人員ノ割合

	一マルク乃至五百マルク	五百マルク乃至一萬マルク	一萬マルク乃至十萬マルク	十萬マルク以上	合 計
第一回	三三%	三六二%	二二一%	三七四%	一、〇〇〇
第二回	三六	四一四	二五六	二九四	一、〇〇〇
第三回	四一	三七五	二三八	三四六	一、〇〇〇
第四回	五七	三四九	二二二	三七二	一、〇〇〇
第五回	四三	二五八	二二九	四七一	一、〇〇〇

是ニ由テ之ヲ觀ルト、第五回ニ至ツテ激減スルニ至ツタ人數ハ、一口一萬馬克以下ノ應募者ニアルノデ、殊ニ一口一馬克乃至五百馬克トイフ小口ノ應募者ニ於テ最モ著シキ減少ヲ示シテ居ルノデア。一口十萬馬克以上ノ大口ノ應募者ニ至ツテハ、第五回ニ於テ却テ激増シテ居ルノデア。シテ見ルト、戰爭ガ永引クニ連レ、戰費ガ増加シ行クニ連レ、軍需品其ノ他ノ引受等デ資本家階級ニハ益々應募ノ餘力ヲ生ズルニ至ルガ、下等社會ニナルト、賃銀收入等ノ増加ハアツテモ、同時ニソレ以上ナル一般物價ノ騰貴ヲ見ルコトガ、彼等ヲシテ次第ニ餘力ナカラシムルニ至ルノデハナカラウカ。

四

然ラバ、次ニ應募金額ニ就テ、如何ナル結果ヲ示シタカトイフト、之ニ就テモ亦次記ノ如キ詳細ナル統計ガ報告サレテ居ル。

軍事公債應募金額

(單位百萬マルク)

	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
二〇〇以下	三六	七一	一三〇	二〇一	五四三
三〇〇以上	一一一	二五四	三六九	四〇七	二九三
六〇〇以上	五八七	六〇四	八四四	七九四	五五二
一、一〇〇以上	二、〇〇〇	七三三	九二八	七九二	五二〇
二、一〇〇以上	五七九	一、三五四	一、五六三	一、二四七	九一一
五、一〇〇以上	四五〇	一、〇五七	一、二〇二	九〇七	七六八
一〇、一〇〇以上	三〇七	七四五	八五八	六六六	六五一
二〇、一〇〇以上	四一〇	九二六	一、一六七	九八〇	九八二
五〇、一〇〇以上	三一五	六四八	八五〇	七三四	八一〇
一〇〇、一〇〇以上	五〇九	一、〇六六	一、七六六	一、五三一	一、七一〇
五〇〇、一〇〇以上	二八七	四四〇	六九五	六四一	八五三
一、〇〇〇、〇〇〇以上	八六九	一、一六二	一、七二九	一、八一二	二、四四八
合 計	四、四六一	九、〇六〇	二二、一〇一	一〇、七一二	一〇、六五二

戰場及海外應募金額ヲ加ヘタル合計

四、四八一

九、一〇六

二二、一六三

一〇、七六八

一

獨逸ニ於テハ、第一回ノ軍事公債募集ニ際シ、國庫債券丈ケヲ募集額十億馬克ト限定シタガ、ソレヲ除ケバ、毎回トモ一切募集額ヲ限定シナイノデアル。然ルニ募集ノ成績ヲ見ルト、前表ノ如ク、第一回ヨリハ第二回、第二回ヨリハ第三回ト、次第ニ應募高ヲ増加シ來ツタガ、遂ニ第四回ニ入ツテカラハ、第四回第五回ト引續キ此趨勢ニ一頓挫ヲ起シテ居ル。尤モ募集ノ條件ニハ多少ノ變化ガアル即チ長期公債ノ方ハ初メカラ常ニ利率五分ト一定シテ居ルガ、短期公債タル國庫債券ノ方ハ第三回マデハ五分デ、第四回第五回ハ四分五厘ニ減ジテ居ル。ガ然シ、之ト同時ニ、國庫債券ノ發行價格ノ方ハ、第一回ニ九十七半、第二回ニ九十八半デアツタノヲ、第四回ニハ九十八半、第五回ニハ九

十八ト引上ゲテ居ル。ダカラ、國庫債券ノ利廻リハ、第一回ノ分五分六厘四毛、第二回ノ分五分二厘九毛、第三回ノ分五分一厘五毛ト次第ニ下ツテ居ルガ、第四回及ビ第五回ニ至ツテハ、ソレガ再ビ五分一厘七毛ニ上ツテ居ルノデアル。且ツ夫レ、公債ノ方ハ、利率ニ變化ナイニ拘ラズ、發行價格ノ方ダケガ、第三回ノ九十九ヲ頂上トシテ、爾來第四回ニハ九十八半、第五回ニハ九十八ト順次引キ下ゲテ居ルノデアルカラ、利廻リハ第一回ノ五分三厘八毛、第二回ノ分五分二厘四毛、第三回ノ分五分一厘五毛ト順次下向シテ居ルガ第四回ノ分ニ至ツテハ、ソレガ忽チ五分二厘六毛ニ上リ、更ニ第五回ノ分ニ至ツテハ、五分三厘五毛トマデ上ツテ居ルノデアル。シテ見ルト、軍事公債ノ利率ヲ徹頭徹尾五分ニ据置テモ、毎回充分ノ應募ガアルトイフ成績ヲ以テ、英吉利ノ如ク次第二軍事公債ノ利率ヲ引上グルモノニ比シ、遙ニ財力ノ強固ヲ示スモノデアルトイフ獨逸藏相ノ傲語モ、アリ當テニハナラヌノデアル。

又前表ニヨルト、應募人員ニ就テノ如キ現象ガ、應募金額ニ就テモ窺ハレル。即チ大口ノ應募金額ハ回ヲ重ヌルニ從フテ増加シ來ツテ居ルニ拘ラズ、小口ノ應募金額ニ至ツテハ、第三回又ハ第四回以後ニ於テ、俄然急激ナル減少ヲ告ゲテ居ル。此現象ヲ明カニスル爲メニ、今一應應募金額ノ類別ヲ少フシタル統計表ヲ左ニ掲グル。

軍事公債應募金額

	一「マルク」乃至五百「マルク」		一萬「マルク」乃至十萬「マルク」		合計
	一「マルク」	五百「マルク」	一萬「マルク」	十萬「マルク」	
第一回	一四七	一、六一六	一、〇三二	一、六六五	四、四六〇
第二回	三二五	三、七四八	二、三一九	二、六六八	九、〇六〇

第三回	四九九	四、五三七	二、八七五	四、一九〇	一二、一〇一
第四回	六〇八	三、七四〇	二、三八〇	三、九八四	一〇、七一二
第五回	四四七	二、七五一	二、四四二	五、〇一一	一〇、六五二

合計

四一、九八五

即チ一口十萬馬克以上ノ應募高ハ一回ヲ重ヌル毎ニ激増シテ居ルガ、一口十萬馬克以上一萬馬克マデノ應募高ハ大體ニ於テ變化ナク、一口一萬馬克以上五百馬克マデノ應募高ハ第四回以後漸減シテ居ルシ、一口五百馬克以下一馬克ニ至ル應募高ニ至ツテハ第五回ニ至ツテ激減ヲ呈シテ居ル。之ハツマリ應募人員ノ場合ト同ジヤウニ、戰役ノ永引クニ連レテノ下層社會ノ疲弊ヲ談ルモノデハアルマイカ。(未完)